



江城日誌

第六

定價一匁

西垣文庫
文庫 10
7291
6



特 文庫10
7291
6

官板

紅城五
百五

江城日誌第六號

慶應四戊辰年五月十七日

五月十六日

五項文庫



肥後より御届之写

當藩隊湯島湯島の黒門江進撃候様被仰付候間

湯島湯島の不忍池端黒門前へ進撃夫より分隊仕

一隊ハ上野南手下谷谷山内へ乗入一隊ハ上

野北へ進入仕候此段御届仕候

五月

士分
深手 高山 秋 藏
歩之者

千田四郎右衛門

江日誌六

薄手 足輕 高野庄藏

右昨日戰爭之節手疵迄外小者、至迄死傷無御座候以上

五月

肥後隊中

○肥前より御届之写

昨十五日上野賊徒御誅伐付戰爭之次第且戰死等左之通御座候此段御届仕候

一大炮二門

右者富山屋鋪へ相備同呀、上野黒門口臺場

并堂柵松藪之内等へ相備居候賊徒打拂且弁天島へ相掛り泰候賊徒之儀ハ小銃と以打拂候一小銃隊

右ハ最前御割付之通本郷辺へ攻入どんと坂辺へ、苦戰候得共同所之儀長州其外兵士込合候付手と分二十人程黒門口カ山内へ薩州其外一同乗入候

討死 宮崎代助 中地藤太 手負 高岸文八

以上

五月十六日

○長州より御届之写

日

夫方一人

肥前侍従内

吉村謙助

戦死之部

嚮導

佐藤左武郎

日

生瀬清見

久山壽太

池永小五郎

原 帛之助

藤井靖六

深手陣營に而死

内山久之進

深手之部

掠木直人

田中平九郎

永井帛藏

大庭佳藏

佐藤辰三郎

右過十五日戦争出人数戦死手負前書之通
御座候以上

五月

長州藩

○筑後より御届之写

一昨十五日攻口之儀千駄木坂下、而長州勢苦
戰之体、御座候間横合、應援之心得、而發
炮仕候

一 根津権現之北、而森際、賊小銃打出候付、發炮
仕候、深樹之内、入何、江、軟退散仕候

一 右同日攻口之儀被、仰渡之通、富山屋敷より
四ッ半頃迄、放炮仕居候、表門防戰堅固、付敵之
真横、打立候様、御使番、御差圖、御座候付、茅
町池之端、轉陣仕形勢見計、打込申候、尤小銃も

兼而銘、手當仕罷在候、付手隙より、連發仕候

一 一昨十五日、金座警衛、弊藩人數千住、追巡邏仕
候、要殘賊、炮鎗之隊伍相備、凡三十人計、突出弊
藩之巡邏見掛、發炮仕候、付此方、發炮仕候

二 付賊退散仕候

一 昨十六日、護國寺へ出兵仕候様、御沙汰御座

候得共、金座へ繰出置候、兵隊之内、直、出兵仕候
付少く、及遲刻候、要、最早殘兵無之由、而諸兵隊
孰も引揚申候、右期、後、候儀、殘念之餘、同所へ
踏込吟味仕候、内前町人家へ罷在候、賊勤仕並

寄合よりあ加藤下總守たか潜匿ひそ仕候付主從討留申候
右兩日戰爭戰死手負左之通

土田清摩隊

手負 栗原文司

上田兵次郎隊

討死 服部金三郎

右之段御達申上候以上

筑後

有馬藏人

○大村より御届之写

上野屯集之賊為討手大下馬江相揃五字出陣

水道橋みづのたき本郷通加州邸かすへ繰入半隊、根津惣
門かど突戰半隊、水戸邸へ出たる坂手前伏兵
之賊と戰爭暫あひして地形悪敷付根津権現堂へ
引揚小隊相會一ま間もあく同所門前寺院へ屯
集之賊と相戦夫々谷中千駄木町ちんご坂辺
かゆか始終戰爭追おく相鎮あ上野黒門山門木相
敗やぶ其手へ進候藩はん既い引揚候趣相聞候付諸
藩申合六字頃巡邏相勤引取候事
一手負左之通

半隊長

宮原俊一郎

右之通御座候以上

五月

○備前より御届之写

深手負 兵士

伊達守之助

日

池田小市

薄手負 日

根岸貞平

大村

渡辺清左衛門

半大隊司令官

太田万治

廿一才

討死

斥候役

平井源八郎

三十八才

同

同

銃隊

伊原儀左衛門

廿五才

内藤惠三郎

廿五才

尾関久五郎

四十二才

大砲隊司令官

三上留吉

疵三ヶ所

内股二ヶ所 内ヶ所為持貫疵

外陰囊一ヶ所 為持貫疵

外羽織四ヶ所

銃隊

妹尾卯太郎

同九ヶ所

内 頭上二ヶ所
右ノ手二ヶ所
左ノ手一ヶ所
右刀疵
陰囊一ヶ所
左右股四ヶ所
右鎗疵

同一ヶ所
左手浅疵

日

松田松三郎

同一ヶ所
右手浅疵

日

片山言一

同一ヶ所
左鬢浅疵
右三名共小銃疵

日

山本弥太郎

右者上野かみく戦争之節討死并手負之者共

御座候此段御届申上候以上

備前侍内

薄田兵右衛門

五月

○佐土原より御届之写
上野ニ而戦争之節

半隊令官
能勢惣之進

右之通御座候以上

五月

○紀州より御届之写

紀藩兵士

佐土原藩

龜井卯吉

右十五日戰爭之節討死仕候

島本龜右衛門

右同斷之節手負申候

山崎熊八

右同斷之節何_レ也_レ而討死仕候哉相知不申

色々探索仕候得共未相分不申候

右之通御座候以上

紀藩隊長

和佐類之助

五月

五月十六日之記事未餘りありて尽しかば亦より猶第七号に續出

